



2012年8月号 No.74

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

道連ニュース

消費増税法案成立にあたって会長所見を公表することを審議

道連第2回理事会開催 ～10/4に岩手生協連加藤会長が講演～

8月2日、第2回理事会が中島理事（コープさっぽろ常務）の議事進行で開催されました。確認された報告事項は①一般活動経過、②事業連携PJ、③第1四半期決算、④協賛・後援、⑤北海道他からの通知、⑥東北地連でした。

議決事項は①役員報酬、②道連見直し検討会の再開、③会費減免及び業務委託契約、④次回理事会運営～10

月に岩手県連会長を招いて「大震災後の岩手県での生協運動分野での取り組み（仮）」の講演を企画することとしました。その他①社会保障と税の一体改革、②IYC企画、③TPP・脱原発への対応、④九州北部豪雨募金、⑤次年度総会及び消費増税法案の成立後に会長所見を公表・HPアップ予定である旨の審議しました。

IYC（国際協同組合理年）の発展を探る北海道学習会を開催

8/27に生協連など協同組合4団体 ～8/25道新に「北海道と協同組合」が特集されました～

北海道協同組合間連絡協議会事務局が準備してきた、IYC北海道学習会が8月27日開催されました。



講演をする生協総合研究所の栗本理事

生協連関係では9会員5団体32名など役職員150名が参加しました。

生協総合研究所の栗本昭理事が「協同組合

の今日的役割と協同組合憲章がめざすもの」と題して講演され、「IYCを生かすも殺すも私たち次第。横のつながりを持って一步でも前に進むことが重要だ」と呼び掛けました。（日本農業新聞）

主催者を代表して、開会はJA中央会長谷川副会長、閉会は当会麻田会長が挨拶されました。

また8月25日(土)の道新夕刊では「北海道と協同組合」（学校の教材に役立つ大図鑑455）と題して特集され、記事が2頁に亘って掲載されました。昨年開催のSOEK代表を招いてのプレ北海道集会を契機に、企画・準備されてきたものでした。

コープさっぽろ '2012ピースアクション inヒロシマ' 行動に参加

8月4日・5日・6日の3日間、日生協主催の平和活動、ピースアクションinヒロシマへ、コープさっぽろより3名の組合員さんを代表派遣しました。

初日の4日は、夕方、広島到着。すぐに平和公園に向かい、全道各地の組合員さんが平和の祈りをこめて折った折鶴を届けました。その後原爆資料館を夜8時まで見学しました。翌日5日は、早朝より平和公園に向かい、ピースアクション分科会へ参加。語り部さんの被曝体験をじっくり聞き、午後からは、虹のひろばにて他生協との活動交流もできました。6日は、祈念式典に参列し、平和の黙祷を捧げ、戦争も原爆もない世界を築いていくことを誓いました。

今年は、8月7日からのピースアクションinナガサキへも組合員12名を派遣し、ナガサキの学習もす

めていきます。その後、8月・9月中に、全道各地区の組合員活動委員会にて、ヒロシマ・ナガサキ平和の報告会を開催し、多くの組合員さんへ、今年原爆被災地にて学んできたことや、感じ取ってきたことを発信していきます。



組合員から託された折鶴を原爆の子の像に納めました

TPPで中央要請をしてきました ～前濱道連事務局長が上京～

8月27日、午前中は北海道選出の国会議員を議員会館に訪ね、TPP協定交渉に関する要請書を渡してきました。午後は高橋北海道知事を筆頭に道議会、農業、林業、水産業、商工会、経済界、消費者とまさにオール北海道で、民主党本部、農林水産大臣、経済産業副大臣、国家戦略担当大臣を訪問。また首都圏のパルシステム生活協同組合連合会は「TPP交渉に参加しないことを求める要請書」を携えてともに要請を行いました。中でも賛成派の陳情が多いという経産省では「日本再生戦略として『グリーン・ライフ・農業』の3つ

の柱を掲げ、農業振興大切と考えている。すべての政策に光と影があるが影が薄くなるように考えている。総理の判断を待っている。」と手応えのない回答でした。



TPPを考える市民の会が自費出版した本を農水大臣への要請で手渡す前濱事務局長

生活クラブ生協 「平和活動の取り組み」～過去から未来につなげる～ ヒロシマ・ナガサキの平和行動から19回目を迎え、 今年は広島の大久野島フィールドワークを企画

毎年、被害と加害の視点にたって平和行動を組み立て、今年は地図から消された島・毒ガス島などと呼ばれている広島の大久野島フィールドワークを行いました。



大久野島の戦争遺跡めぐりで平和学習をする参加者のみなさん

札幌でも8月9日、白石区平和にあるノーモア・ヒバクシャ会館を訪ね、たくさんの子どもたちと一緒に貴重な被爆証言に耳を傾けました。また、日常の暮

らしの中で“平和”を捉え直そうと札幌市における歴史ウォッチングとして強制連行や現存する戦争関連施設などのフィールドワーク、戦後60年には本土決戦の場となった沖縄にも組合員と共に行きました。活動は更に日常生活と密接に関わりある「憲法」を考えようと学習会や出前講座、憲法連続講座へと発展しています。3.11福島原発事故をきっかけに、“平和”をキーワードにした読書会も開催しています。過去の歴史を学び、見て、聞いて、体感することで、戦争の悲惨さ、命の大切さ、平和とは何か、平和に生きるとは、自分が何をすべきかを考え直す機会を多くの組合員へ発信しています。

北海道医療生協

戦争の記憶を語り継ぐつどいが開催されました

北海道医療生協の地域支部協議会主催による「戦争の記憶を語り継ぐつどい」が8月14日(火)に開催されました。参加人数は約50名で3名の方に戦争体験のお話をして頂きました。

現在91歳の女性は実家の猫が、軍隊が毛皮を作ると言う事で軍に召集され、猫は分かったのか奥から出て来ず、可哀そうで涙が出た。その後、日高へ疎開し終戦を迎えた話。90歳の女性は樺太から引き揚げの際、自分以外の2隻の客船が留萌沖で攻撃を受け沈没した。また、ソ連に連行されたご主人が終戦後10年目に帰ってきたがソ連にいたことで「赤」と言われ、悩み1年後に他界した話。また、94歳の女性は太平洋戦争

の開戦時と終戦時に自分が書いた日記を当時にタイムスリップしたかのような雰囲気を読まれました。

最後に地域支部協議会代表より、二度とあの様な悲惨で不幸な戦争を起こさない様、私達が戦争を語り継ぎ、次の世代へと伝承して行きま

しょうと挨拶があり閉会しました。



50名が参加した9回目のつどい

事業提携推進委員会報告

「元気プロ」活動推進第二段階へ!!

8月20日、四者協議(コープさっぽろ、全労済、道医療生協、ほくろう)が開催され、元気プロの活動を第二段階に進めることが確認されました。

協議では、コープさっぽろさんより、元気プロの事業参画として文化教室・配食事業・コールセンターの自前化で約480坪程度の出店表明がなされました。この表明を受けて元気プロの活動は、テナント部分の区分

所有オーナー・基本設計業者探し、副都心開発公社へのプレゼン等次の段階に進むことになりました。

次回事業提携推進委員会は9月12日に開催され、この間準備してきた、重油と紙おむつの共同購入の具体化、省エネ・コスト削減対策報告、市民後見人調査の中間報告などについて話し合いが行われます。活動がいよいよ本格化し始めます。